

4 地球温暖化に対してできること

(6) 災害に備える(適応策)

社会…日本の地域的
特色と地域区
分
理科…自然と人間
保健…傷害の防止に
ついて
家庭…衣食住の生活

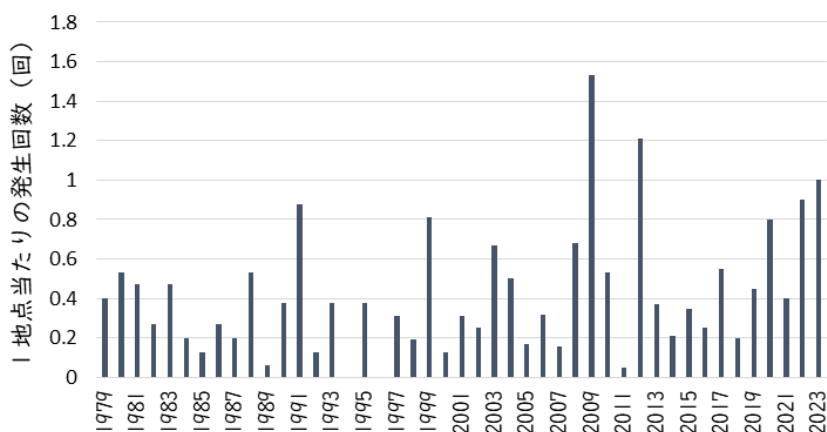
地球温暖化で気温が高くなり、大気中の水蒸気が増えると、洪水^{こうずい}や台風などの自然災害がさらに増加することが心配されています。

実際に、近年は記録的な大雨が増えており、大きな災害が発生する危険性が高まっています。過去の経験にとらわれずに、ハザードマップなどに想定された大きな自然災害に備え、自分の身を守ることが大切です。

【ハザードマップ】

・洪水などの自然災害による被害の可能性や、避難場所^{ひなん}などを示した地図。
・市町村により、作成・配布されている。

福岡県 1時間降水量50mm以上の年間発生回数

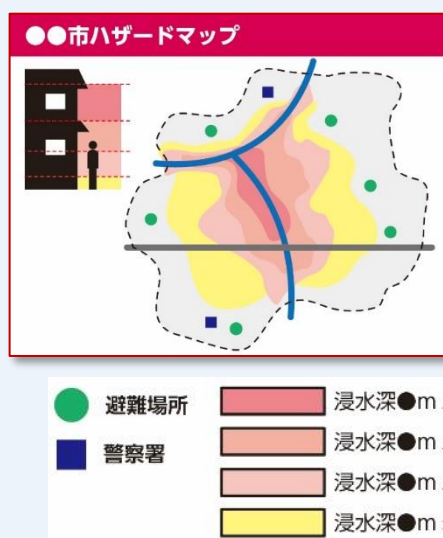


<ハザードマップを確認してみよう>

自分が住む自治体のハザードマップを確認し、家や学校のある地域で起こりそうな自然災害^{こうずい}（洪水、土砂崩れ^{くず}）を確認しよう。また、地球温暖化による影響^{えいきょう}を考え、危険性が増す災害には何があるか話し合おう。

(確認するポイント)

- ・避難場所^{ひなん}や避難所^{ひなん}に指定されている場所
- ・各自の避難ルート（家から/学校から）
- ・危険な場所と対策
- ・地球温暖化による影響^{えいきょう}



* | 九州・山口県のこれまでの気候の変化（福岡管区気象台）を基に作成
<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyu/report/observation.html>



<実際に歩いて確認してみよう>



自宅から避難場所までのルートを実際に歩いて、確認してみよう。
また、新しい発見があれば、クラスで発表して、情報を共有しよう。

(確認のポイント)

- ・危険物や危険箇所（ブロック塀、看板、がけなど）はないか。
- ・他の避難経路はあるか。



<災害で必要なものを備えよう>



福岡県防災ハンドブック*2を参考に、災害時に必要となる備蓄品を調べ、家族に必要な量を計算してみよう。また、実際に備えたものにはチェックを入れよう。



防災ハンドブック*2

分類	備えるもの	必要数量	備える数量
食料・水	☒ 無洗米	105食分（5人×7日）	10kg
	☐ ○○	○日分（○人数×○日分）	○○日分
	☐		
その他	☐ 電池		
	☐		
	☐		

■ 災害時に必要となる備蓄品の例

●食料

お米やアルファ米、レトルト食品や缶詰、カップ麺などを最低3日分、できれば1週間分を準備。



●飲料水

水（飲料と煮炊き分）は大人1人1日あたり3リットルが目安。水の配給を受けるためのポリ容器、給水袋も必要になる。

●燃料

卓上タイプのカセットコンロや固形燃料を用意。予備のカセットガスなどは多めに保管しておきたい。



●衣類

下着や上着、毛布など。季節や地域の状況によって必要な物、数量を決める。

●工具類

救助活動の際などに使用。スコップやパール、ジャッキ、ノコギリ、ペンチ、ロープ、ハンマー、カッター など。

●その他

皿・コップなどの食器類、ラップ、歯磨きセットやせっけん・ドライシャンプーなど衛生用品、ランタン・ろうそくなどの灯り、新聞紙・段ボール・布製ガムテープ、ほうきとちりとり など。

【備蓄品】

- ・被災後の数日を乗り切るための食料など。
- ・災害後は、電気・ガス・水道などが止まることを想定して、少なくとも3日以上を備えておくとうい。

※感染症対策として、マスク・アルコール消毒液・体温計も準備しておきましょう。

*2 福岡県防災ハンドブック（福岡県）

※12ページに備蓄品のチェックリストが用意されています。